

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

いい人・いい音

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

第28号

2023年1月4日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団
編集：専務理事・事務局長 壁谷 章 可
住所：〒163-0633
東京都新宿区西新宿1-25-1
TEL: 03-3349-6194
FAX: 03-3345-6388
<https://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>

「トビリシに響いた」「荒城の月」



これまで、日本だけでなく、いくつかの国の学会で発表や講演をさせてもらった。

アメリカ、香港（中国）、オランダ、リトアニア、フィンランド、ジョージア（グルジア）、アイルランドといったところだろうか。今年はノルウェーの学会で発表する予定である。

心がけているのは、それぞれの学会が主催するパーティやエクスカージョン（親睦を図るためのミニツアー）に、できる限り参加すること。本音をいえば、はじめて会う人々と外国語で会話を交わし、それなりに「楽しく」過ごすというのは、なかなか面倒なのだ。毎回、自分の発表が終わったら、ひとりで街を散歩して帰ろうかな…と弱気になったりするのだが、いやいや、それでは折角、外国にきた甲斐がないと、自分を励ますようにして、パー

ティや遠足に出かけてゆく。

しかし、今のところ、後悔したことは一度もない。虎穴に入らずんば虎児を得ず、といったら大げさだが、各国の学者と酒を飲み、ちよつとした遠足に行く中で、必ず得るものがある。

たとえば、ジョージアのトビリシの学会に参加したとき。学会が終了した翌日の朝、小さなバスに乗せられて2時間ほど、田舎の崖の上にある正教会の建物を訪れた。周りは見たすかぎり岩ばかり。その風景は中世から全く変わっていないのではないかと思われる荘厳かつ孤独なもので、今でも忘れがたい（近くの民家には、軒先に解体された牛が吊るされていたりする）。そして帰りにはやはり古いワイナリーに連れて行ってもらい、皆で飲んだ。ジョージアはワイン発祥の国として有名なのだ。

面白かったのは、酔っぱらった勢いで「それぞれの国の歌を披露しよう」という話になり、順番にワイナリーで歌ったこと。よく覚えているのは、ギリシャから来た学者のつぶやくように柔らかな民謡、そしてジョージアの学者たちのあまりにも華麗な、即興の合唱（これは本当に凄かった）。さて、僕の番。困った、「日本の歌」というのが何も思い浮かばない。山下達郎の「クリスマス・イヴ」ならば歌えるが…。

桐朋学園大学・大学院教授

沼野雄司

（当財団音楽分野選考委員）

ふと隣を見ると、たまたま同行していた妻がいる。なんとかお願い、と頼み込んだら、彼女は意を決して「春高樓の、花の宴」と歌いだした。

ジョージアの片田舎のガラソとしたワイナリーの空間に響く「荒城の月」。その旋律は、なんとも寂しく、しかし温かく、一同から大喝采を得たのだった。

いい気分ホテルに帰ってきたのだが、ふと気づいてみれば、トビリシ音楽院の人々が案内してくれたこのエクスカージョンで、われわれは、4世紀からの長い歴史を持つジョージア正教に触れ、紀元前6千年（！）からの歴史があるというジョージア・ワインを楽しむ、そしてやはり世界的に有名なジョージアのポリフォニックな合唱を聴いたわけで、つまりはこの国の自慢とするものを一通り受け取ったわけだ。これらは、学会の中でのさまざまなり取りと同じくらい、いや、場合によってはそれ以上に貴重なものだったように思う。

海外研修に行く皆さんもぜひ、それぞれの国で、積極的に「そこにしかないもの」に触れていただきたい。そしてもうひとつ、忘れてはいけなは、必ず「日本の歌」をひとつ仕込んでおくこと。きっといつか役に立ちます！

「海外音楽研修生費用助成」の

2023年度申込受付を開始

当財団は、1991年6月の設立以来、「クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成」を目的として海外音楽研修や海外音楽コンクール参加のための費用の助成を行ってきました。

過去32年間の助成対象者数は、合計213名です。

2023年度においても、「海外音楽研修生費用」の助成希望者を公募いたしますので、助成を希望される方は、主な音楽大学や音楽指導者宛に送付した「申込要領」または当財団のホームページをご覧いただき、4月7日（金）までにお申し込み下さい。

助成の趣旨等

1. 助成の趣旨

わが国のクラシック音楽文化の向上のため、国際的音楽家を目指して研鑽中の

若手音楽家に対し、海外、特に欧米への留学に必要な費用の助成を行います。

2. 助成対象

海外の教育機関等に留学し、技術を練磨するとともに、その実体験を通じてさらに研鑽を深めることを志す方。（対象とする専門分野は、声楽・器楽）

- ・ 大学卒業（予定）者および大学院在籍者・修了（予定）者。なお、高等学校卒業（予定）者も可とする。
- ・ 声楽は1990年9月1日以降、器楽は1995年9月1日以降に生まれた方
- ・ 海外留学についての計画と目標が明確である方
- ・ 2023年から2024年12月末までに申込書に記載された教育機関等に入学が可能な方
- ・ 研修目標の達成に必要な語学力を有する方

※ 既に海外に留学中の方も対象になります。

3. 助成対象人員

・ 4名程度

4. 助成金額

・ 年額200万円

・ 助成期間は原則2年

申込手続書類等

1. 申込書

・ 所定用紙による。

2. 推薦書（二通）

- ・ 2名の方の推薦が必要。
- ・ 推薦書には、次の項目を必ず記入のこと。①あて先（当財団名）、②被推薦者（応募者）の氏名、③推薦理由、④作成日（3ヶ月以内）、⑤推薦者本人の署名

3. 映像資料

- ・ 本人の演奏を収録したDVDを提出のこと。（ピアノおよび打楽器について）
- ・ 申込要領にて確認のこと
- ・ 2022年7月以降に収録された演奏であること。
- ・ また、カメラアングルは固定し、以下に留意すること。

声楽…演奏者の顔と上半身が明確に映る角度

ピアノ…演奏者の顔と手元が明確に映る角度

弦楽器…演奏者の顔と手元、弓を含む楽器全体が明確に映る角度

管楽器…演奏者の顔と手元、楽器全体が明確に映る角度

打楽器…（管楽器に同じ）その他…オルガンはペダル操作も映る角度

映像と音声は同時に収録し、特に音質には留意すること。

- ・ 映像資料（DVD）は、複数の曲目の場合は、各曲・楽章を別々に分けて収録することは構わないが、収録は同じ会場（場所）かつ同じ日に収録し、DVD1枚にまとめること。
- ・ 演奏曲目の構造に応じて、その内容を申込書Ⅲ「2. 曲目と楽曲構造の内容」に記載すること。

日程

1. 申込期限

・ 4月7日（金）必着

・ 書類および資料は簡易書便等（配達確認が可能な方法）による送付を原則とします。

2. 選考日程

・ 第一次選考（書類・録音資料審査）は4月下旬

・ 第二次選考（第一次選考通過者に対する実技および面接）は5月24日（水）

【開催地 東京・新宿】

3. 結果発表

・ 6月上旬予定

選考方法

当財団の選考委員会で厳正に審査の上、助成候補者を選出し、その後、理事会の承認を経て助成対象者が決定されます。

詳細については、「申込要領」または当財団のホームページ

（www.meijyasuda-gol-bunka.or.jp）を参照下さい。

海外音楽研修生レポート

「見つめることを学ぶ」



(ラ・ロックリダンテロン国際
ピアノ音楽祭 ©2022 Valentine
Chauvin)

(21年度助成・ピアノ)
谷口 知聡
(留学先・パリ国立高等音楽院)

強く願い続けていたフランスでの留学生活が早くも2年目を迎えました。こうして留学を実現することは貴財団の御支援なくしては本当に考えることができず、貴重なお力添えに改めて心より感謝申し上げます。
フランスでは最近コロナはほとんど終わったことの

ように扱われ、普段の生活や音楽院での勉強、そして演奏会などの催しは問題なく行われていると感じます。私自身は、2022年4月に第15回オルレアン国際ピアノコンクールに参加し、有難いことに第2位を頂くことが出来ました。コンクールが終わってからもお会いする度に進捗を気にかけてくださる、素晴らしい演奏家やプロデューサー、メディアの方々との出会いは、コンクールを通して得た何にも代え難いご縁です。頂いた賞に関連したプロジェクトを春に控えている他、フランスとイタリア、東京で行われる音楽祭のお話を頂き現在準備に励んでいます。11月には東京でのソロリサイタルも控え、2023年という年を無事に走り抜けることができるか不安ですが、ご縁に感謝しながら一心に取り組んでまい

る所存です。

留学生活で一番多く悩むことがあるとしたら、それはいつも自分の語学力の足りなさからくるものですが、語学に問題があるうとなかろうと常に励ましの言葉をかけてくださる、尊敬する先生方と学ぶこの恵まれた環境にあることを本当に幸せに思います。

パリという街は、様々な背景を持つ人々がひしめき合い、ヨーロッパの人だけでなく移民系の方や私のような留学生、また観光客というようにいくつもの言語や考え方や習慣を日常的に近く感じる環境です。人としての様々なあり方が受け入れられているように感じる安心感がある一方で、パリ国立高等音楽院のある地域など特に治安のよくない地区では、時に恐ろしい事件などを耳にすることも少なくありません。美しいことも醜いことも隠さずに見つめる必要がある場所だからこそ、様々な意見や価値観に触れる度に、本当に必要な教養とはどういうものなのか、どのような人でありたいのか、を考えさせられます。

人としても演奏者としても未だとても未熟ですが、経験という失うことのない宝物を糧に、これからも全力で精進してまいります。

「今だから学べること」



(A. シッフ氏によるマスタークラス
レッスン後)

(21年度助成・ピアノ)
阪田 知樹
(留学先・ハノーファー音楽演劇
メディア大学)

コロナ禍に明るい兆しが見え始めたかと思ひ始めた途端、ウクライナ情勢が緊張の一途をたどり、留学生活を更に脅かすだろう現実が苛まれているところです。その影響が最初に訪れたのは、オイルショックでした。

とにかく何処に行っても油という油が全て売り切れで、火を使わない食材やお総菜ばかり購入せざるを得なくなってしまうました。日に日にあらゆるものが値上がり、円安レートも手伝って、勉強に必要な書籍や楽譜の購入などにも影響が始め、図書館の活用を増やしました。今一番心配なのはエネルギーです。暖房などの光熱費が高騰しているのです。今後経済的に大打撃を受ける可能性があり、問題は次々と形を変えてきています。

コロナ禍の影響で、以前にはスムーズに進んでいた学内外での事務手続き、ビザ申請にそれまでの数倍の労力と時間がかかり、アパートの修理、点検なども同様で、ただでさえ期日厳守にて行われることの少ない文化の中、こういった類いのことに苦労が増え、かなり精神的に鍛えられたと思います。私の場合には、私自身だけでなく担当教授ご自身がドイツにて入国制限を受けてしまう時期もあり、オンラインレッスンなどの利便性に感謝するという特別な日々が想像より長く続

きました。在籍するソリス

トクラスでは、実際の演奏活動に基づいたレッスンを基本とし、受け身のレッスンではなく、ヨーロッパに根付くクラシック音楽の伝統を踏まえた上で自身の解釈を表出し、教授にご意見を仰ぐというのが常なのですが、コンチェルトのレッスンは通常の形で再開し、充実しました。それまでは対面で2台ピアノでのレッスンは叶わず、自身でオーケストラパートも奏でていたので、不自由な部分がありました。不利益を考慮しないよう「今できることを」という前向き思考をもつよう心がけていたことに気づかされました。学内外でのマスタークラスもほぼ通常通り再開され、貪欲に学べるようになりました。



「ベルリンでの日々」



(ルドルフイヌム(プラハ)での演奏。©Jakub Lhota)

(21年度助成・ピアノ)
太田 糸音

(留学先・ベルリン芸術大学)

コロナ禍による影響はありますが、実技レッスンは完全に対面で実施されるようになりました。ドイツ国内では公共交通機関ではまだマスク着用を義務づけられています。街に集う人数も増え始めています。留学生活が始まると同時に、初めての一人暮らし生活が始まりました。軟水・硬水の違いなど日本で生活す

る時と異なることも多く、慌ただしさもありますが新しい発見と驚きの連続です。はじめは電子レンジの消費電力を確認しそびれて日本より持ってきていた容器を溶かしてしまったり、フライ返しを1日(のようなもの)にかけたフライパンの上へ置いたまま溶かしてしまったり、自炊でのアクシデントが多々ありましたが、少しずつ作れる品数が増えたことが生活する上での喜びに繋がっています。

また毎日のように開催されるオペラやコンサート、関連するワークショップの多くを学生は半額以下のお値段で聴きに行くことができ、第一日曜日にはベルリンにあるほとんどの美術館が無料で入場できるため、違った視点から物事を考える時間が増えたことは留学してよかったと思う点の1つです。

大学の練習室を予約するため専用ページにログインして部屋を探しますが、ゼメスターが始まると授業やレッスンで教室が埋まりやすいため、部屋の争奪戦となります。時には予めアラームをつけて画面の前で

待機することもあり、時間調整を忘れているのに気がついた友人が連絡をくれることもありました。情勢の影響によりドイツのガス不足による節電対策も兼ねて太陽が沈んでから学校で練習することも増えましたが、広い部屋も多いので有難い環境です。ガスの影響により電気代の高騰も囁かれていたため、なるべく使わないように心がけて生活することとなりました。これが今1番不安を感じているところかもしれません。

学べる楽しさを感じながら、これからも精進して参ります。

「ブリュッセルでの生活」

(21年度助成・ヴァイオリン)
北田 千尋
(留学先・ブリュッセル
王立音楽院)

初めて1人でゆく海外にどきどきしながら、ブリュッセルへ。コロナ禍の渡航は、出発までの手続きが通常よりもたくさん必要で、家族や周りの人にも心配されていました。そんな中、なんとか出発の日を迎え、勢いだけで飛び立ちま



(スロバキアでのコンクール)

した。飛行機には数えるほどしか乗客がいない快適なフライトの後、無事入国手続きを終え、小さくガッツポーズ！

ところがその後、電車を乗り間違えてしまい、ブリュッセルの中心地に行くはずがアントワープまで行ってしまうというハプニング。そんな留学生活のスタートでした。そして1年が経ち、振り返るとあつという間でしたが、かけがえない貴重な経験ばかり。これまでの人生の中でも特に毎日が新しいことの連続でした。

ベルギーの公用語はオラ

ンダ語、フランス語、ドイツ語です。ほぼ英語も通じますが、一番苦労したのは、役所や警察での行政手続きでした。ホストファミリーが何度も交渉してくださらないければ、たぶん1人では不可能でした。

ブリュッセルでは新しい素敵な出会いがたくさんありました。最初にお世話になったホストファミリーはご夫婦と5人の子供たちのいるご家族で、みんな音楽が大好きで、楽器も演奏できる人ばかり。家族に加わって弦楽四重奏をやってみようと誘ってくださり、一緒に演奏していると、緊張していた私の心が一気にほぐれていきました。一緒に料理を作ったり、休日はホームパーティーで演奏したり、家族の一員のように温かく迎えてくださいました。

学校生活でも同世代の友人と有意義な交流ができました。現在師事している先生の元には、様々な国籍の門下生がいて、それぞれ自国の料理を作って振る舞うインターナショナルディナーが催されました。私はソウルフードのお好み焼き

を作りました！

周りの心温かな人たちに教わり、助けられながらなんとか生きていくことができています。常に感謝を忘れないで、私もいつかご恩返しができるよう日々精進したいと思っています。

「コロナ禍でのドイツ留学」



（2022年オーストリアにて行われたマリア・ホーファー国際オルガンコンクールにて）

（22年度助成・オルガン）

東方 理紗

（留学先：フライブルク音楽大学）

ドイツのフライブルクでの留学生活は、早いもので2年目となりました。留学生活を始めてからのこの1年間は、留学前は想像もしなかった出来事や、これま

でに経験したことがない出来事など、様々な経験をしました。

私が留学を開始した2021年の秋は、新型コロナウイルスが世界中に広がっているコロナ禍真っ只中でした。入学試験を受けた6月は、特別な理由がない限りは渡航が許されない厳しい状況で、出国前に空港で陰性証明や渡航理由の証明となる入学試験の受験票を提示したにも関わらず、はじめは渡航が許可されませんでした。その後空港でやり取りをしてなんとかドイツ側からの渡航許可が確認され、入試を受けに行くことができましたが、ドイツに到着してからもコロナの影響で通常通りにはいかず戸惑うことがありました。当時は一人で海外に行くことが初めての上にコロナによって様々に状況が変化していて、不安でいっぱいでした。

日に日に変わってゆくために日に日に変わる状況に適應することに苦労しました。初めての異国での生活に加えて種々の手続きや慣れないドイツ語での生活、様々な状況の変化などに常に気が休まらず、はじめはオルガンの練習や勉学に集中することができませんでした。また、コロナによって予定していた演奏会やイベントが中止、またはいつ中止になるかわからない状況が続き、予定通りにいかないことの連続でした。

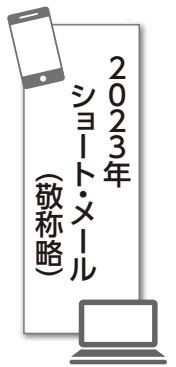
1年間の留学生活を経験して、日々変わりゆく状況に適應していくことや、何事にも臨機応変に対応することの重要性を改めて感じています。また、困難な場面に遭遇する度に、いつもたくさんの方々の力を借りて何とかドイツで生活することができています。

最後になりますが、貴財団にご支援頂き、このような大変な状況の中で有意義な留学生活を送らせて頂いていることに感謝いたします。これからも留学生活の中で多くの経験をし、少しでも成長できるよう精進いたします。

日本音楽コンクール 明治安田賞受賞者（作曲部門）

日本音楽コンクールの作曲部門は、作曲家の方々がデビューの足掛かりとしてきた重要な部門ですが、当財団は若手作曲家の励みとなるよう同部門の最優秀者に対し「明治安田賞」（賞金50万円）を寄託し、次の方々が受賞されています。

98年度（第67回）	大場 陽子	あかね
99年度（第68回）	三浦 則子	
00年度（第69回）	小野 貴史	
01年度（第70回）	名倉 明子	
02年度（第71回）	朴 銀荷	
03年度（第72回）	中村 寛	
04年度（第73回）	宮澤 一人	
05年度（第74回）	横島 浩	
06年度（第75回）	篠田 昌伸	
07年度（第76回）	山根明季子	
08年度（第77回）	稲森安太己	
09年度（第78回）	江原 修	
10年度（第79回）	三宅 悠太	
11年度（第80回）	魚路 恭子	
12年度（第81回）	平川 加恵	
13年度（第82回）	網守 奨平	
14年度（第83回）	杉本 友樹	
15年度（第84回）	向井 響	
16年度（第85回）	東 俊介	
17年度（第86回）	白岩 優拓	
18年度（第87回）	久保 哲朗	
19年度（第88回）	井上 渚	
20年度（第89回）	松本真結子	
21年度（第90回）	福立 祐矢	
22年度（第91回）	石川 健人	



助成対象者の皆さんから寄せられたお便りを助成年度、専攻部門の順に掲載しました。

1991年度助成

江澤 聖子

(ピアノ)
貴財団の助成事業も今年で32年を迎えられたと伺い、年月の経つ早さに改めて驚いております。第一回奨学生としてベルリンの壁が崩壊した直後に渡独し、本場の音楽を存分に学ぶことができたのはひとえに貴財団のお陰であり、今でも深い感謝の気持ちでいっぱいです。長引くコロナ禍の困難にも負けずに留学へと夢を繋ぐ若い方々に、私の教え子が執筆したブログをご紹介します。ドイツ大使館が運営するドイツライフスタイルガイドで、留学生生活やクラシック音楽をテーマに「音楽でもっとわかるドイツ」というタイトルで連載しています。

<https://young-germany.jp/author/saki-kubota/>

皆様の実り豊かな留学生生活を陰ながら応援しております。

鈴木 優子

(パーカッション・ハンブルグ在)
昨年は、コロナでの制限が徐々に緩和され、観客を前に演奏できることをあらためて嬉しく感じました。

コロナ禍での経験を生かし、様々な状況でも臨機応変に活動できるようにと心がけています。今年は、打楽器の奏法を初期の音楽教育に取り入れた指導法について、考えをまとめ実践していきたいと思っています。

1992年度助成

田中 晶子

(ヴァイオリン)

コロナ禍の苦難の中、音楽を学ぶ私達にとって、各自が自分の音に対する感性をより一層研ぎ澄ます時にもなったのではないのでしょうか。歳を重ねるごとに音楽の尊さに感じ入る気持ち。一生かけて学び進化する、深い世界に関われる人生に感謝が止まりません。21年はブダペストの国際コンクール審査に行き、数十年も居たヨーロッパなのに、すっかり逆浦島花子状態！来

年からは新しいプロジェクト(CD録音など)も始まります。早い世界の進化に柔軟な感性を持てる人でありたいと思います。

梅津 千恵子

(パーカッション)

2022年秋～冬は、『文化庁Arts for the future2』事業で前年に引き続き、新作委嘱公演を企画演奏しました。今回は「ギターとヴィブラフォンのデュオ」をテーマとし、一般公募作品も含む新作3選をメインに、仙台・熊本・柏・軽井沢大賀での全4公演。地方公演では地元の音楽家との共演で音楽の輪が広がり、委嘱作曲家のひとり藤家溪子氏のアフリカで孤軍奮闘中のオペラ制作とも繋がり、文化活動に携われることに切磋琢磨、日々感謝しています。

1993年度助成

九頭見 香里奈

(ヴァイオリン・アウグスブルク在)

シュトゥットガルトフィルの第二コンサートマスターとしての仕事も早くも22年目に入りました。室内楽やソロのコンサート機会有り、何よりも、良い仲間達に囲まれて弾けることに感謝をしています。

ます。

春ごろから、長男が通うギムナジウムや、スポーツクラブなどでウクライナの難民の方たちに関わる機会が少しあったのですが、最近の私の職場での入団試験には、ロシアから逃げてきた男性が受けに来ました。楽器を持ち出すことも出来ず、家族を故郷に置いたまま、フィンランド経由で逃げてきたそうで、ドイツ語は全く、英語も少ししか話せない人でした。審査をする側としては、同情で通すわけにもいかないと思いつつも、とても複雑な気持ちになりました。

ほんの少しでも、自分に来る事をしようと心がけている毎日です。

小林 幸子

(ヴァイオリン)

齋藤 千尋

(チェロ)

(注：両氏はロータス・カルテットとして演奏活動中・シュトゥットガルト在)

2020年からのコロナ禍の始まりに当時のセカンドヴァイオリンのメンバーだったマティアスが、数年のうちにカルテットを引退したいと希望し、新しいメンバーを探し始めました。コンサートが

立て続けにキャンセルされたのは残念でしたが、次のメンバーについて3人で考える時間を落着いて十分に持った後に、正に試用期間のような形で何人かの優秀なヴァイオリニストたちとリハーサルをしてたくさん時間を持って納得のいくまで集中してメンバー探しが出来たことは大変貴重な体験でした。

その結果、人間的にも音楽家としても優秀であるだけではなく私たちと非常に相性のあうスワンティエ・タウシャールさんを今年3月より新しいメンバーとして迎えました。彼女は現在契約団員としてフライブルクオペラのオーケストラの第1コンサートマスターとしても活躍されています。

また私たちが師事したメロスカルテットのチェリストのペーター・ブツクさんや、ハーゲンカルテットのセカンドヴァイオリン奏者のライナー・シュミットさんの元で研鑽を積んできたこともある所以からか、何事においても息がぴったり合うと言う驚きが隠せない日々で、私たちにとってはコロナあってこその大収穫でした。



1994年度助成

樋口 あゆ子 (ピアノ)

2023年度は、日本とベトナムが外交樹立50周年記念であり、私は、秋より、2013年から私が総音楽監督実行委員長を務めます「第4回日本ベトナムピアノフェスティバル」を日越両国関係で開催いたします。それに伴い、これから、両国の若手代表ピアニストを選抜いたします。コロナ禍で国際交流コンサートが数年ストップしてしまいましたがこの音楽フェスティバルを通して両国の友好関係が更に発展することを願っています。そして、私がラジオ司会を務めますFM yokohama「ピアノワイナリー響きのクラシック（毎土18時45分）」が今年12年目を迎え1月に600回放送記念を迎えました。本番組は、2022年より2ヶ月に1回世界の音楽家をご紹介をするコーナーを設け、昨年は、ウィーンフィル首席ファゴット奏者、ドレスデンフィル首席オーボエ奏者、トリニダード出身ソプラノ歌手等をゲストに迎え、今年も引き続き国内音楽家と共に海外の音楽家をご紹介いたします。どうぞお楽しみください。

さい。

マリア・アヤ・アシュリー (ヴァイオリン・ボン在)

クラシック音楽の意義とは何かを改めて考えさせられた一年でした。経済、文化、そして子供達が犠牲になったコロナ騒動が終わりかけたと思えば、一つ国を跨いだ所で戦争が始まり、逃げて来た子供達が身近にいて、私達に何ができるのか。キエフの弦楽器奏者を私達のオーケストラ（ケルン放送響）にエキストラとして呼んだりもしています。が、子供達の将来の為に出来ることは何か、今考えています。音楽は人が生きていく上で助けになると信じています。

横山 奈加子 (ヴァイオリン)

昨年は後進の指導他、自主企画でファゴット、ピアノ、ヴァイオリンという珍しい組み合わせで、ウェーバーのピアノトリオをメインにしたコンサートを開かせて頂きました。また、念願だったブラームスのヴァイオリンソナタ全曲を録音し、今年の春には発売予定です。聴いて頂けたら幸いです。どうぞよろしくお願ひ致します。

神田 寛明 (フルート)

演奏や教育分野において、コロナ禍以前の活動がかなり戻ってきたように思います。昨年3月に行われた第10回神戸国際フルートコンクールは、本選まですべてを動画審査で行わざるを得ませんでした。その時の第1位入賞者が同年のミュンヘンコンクールでも上位入賞を果たし、動画審査の有効性を感じる事ができ、安堵しました。日本音楽コンクールなどの国内主要コンクールは対面審査で行われ、こちらも別の意味で安堵しました。と言ってもまだまだ油断は禁物ですね。



1995年度助成

石橋 幸子 (ヴァイオリン・チューリッヒ在)

2022年スイスでは一年を通してオーケストラコンサートは以前同様に行われ、コロナの影響も少しずつですが薄れてきたように感じます。しかし個人で開催する室内楽のコンサートは依然自粛傾向にあり、減少しつつある

様にも思われます。音楽大学は通常通りです。これから留学を考えていらっしゃる方々は、どうぞ今できることを前向きに取り組み、こちらの先生としつかり連絡を取り合って留学先を決めて下さい。

大森 潤子 (ヴァイオリン)

留学を希望する学生が「オンラインでなく（欧米の）現地でリアルなレッスンを受けたい」と語っている一方で、最近、来日する演奏家からは（いまだにマスク社会の）日本での振る舞いに戸惑うと聞きます。欧米との地理的な距離を、改めて感じずにはいられないこの頃です。今夏は3年振りに、欧州に暮らす友人たちや恩師と、日本で再会を喜び合う事ができました。札幌で続けているバッハ無伴奏の演奏会は13年目を無事に終演し、コロナ禍の反動か、各地での学校アウトリーチも活発な一年でした。昨今の世界情勢においても変わらず、海外で学ぶための助成をして下さっている貴財団に、お礼を申し上げます。私も留学させて頂いたお蔭で、世界のあちこちに気に掛け合う友人を持つた事を、有難く思っています。

志茂 美都世 (ヴァイオリン)

マスク生活が長引くあまりに、今や私にとって、お洒落コーデインポートに欠かせないアイテムにマスクが加わってしまったと感じるこの頃です。コロナ禍の生活で世の中が変わり、音楽的な将来について不安を感じることも少なくありません。早くこの状況が良くなることを願いながら、今年も色々良いことがあるように努力を怠らず、乗り越えていきたいと思っています。

神代 修 (トランペット)

大阪に赴任して11年目となりました。関西での教育活動に加え、自身の演奏活動と関東の大学での非常勤など、目まぐるしい日々です。演奏活動が再開されて音楽界に元気が戻ってきたのは大変喜ばしい事です。が、一度落としたペースを急に戻す事は大変だと感じています。とは言え、身近にいる学生達が演奏会に出演することによって活気が生じる様子を見るのは嬉しく、やはり音楽の力は偉大だなと改めて思い直す日々です。

1996年度助成

磯 絵里子

(ヴァイオリン)

昨年はデビュー25周年記念のコンサートを、信頼する音楽仲間とのアンサンブルと共に「二つの四季」と題してピアソラとヴィヴァルディの「四季」を全曲演奏をいたしました(於 紀尾井ホール)。貴財団のご支援で留学してクラシックの本場で培ったものと、帰国後の演奏活動で得た音楽を、喜びで会場が満たされたように感じ、忘れ難い公演となりました。この四季はライブ録音をし、CD化を予定しています。今年は「椿三重奏団」での協奏曲シリーズでブルッフのコンチェルトを弾けるのを楽しみに、また通常のコンサート、アウトリーチ、宮崎音楽祭などの活動も予定しています。12年目に突入したFMヨコハマの「磯 絵里子のSEASIDE CLASSIC」でもクラシックのあれこれを発信しております。3年前に始まったコロナ禍も完全終息はまだ先のようにですが、対策を講じつつ演奏会が無事に開ける喜びは私達演奏家にとって幸せなことです。留学中の若い皆様、今できる勉強が全て未来に続くことを信じて、楽しんで学

んで欲しいです。

私のその他の演奏活動は左記HPで公開しております。
<https://erikoiso.jp>

安藤 裕子

(ヴァイオリン)

演奏活動を始めて、30近い月日がたちました。若い日に、明治安田クオリティオブライフ文化財団様はじめ、緒先輩、先生方のご尽力、ご支援をいただき、様々な研鑽の場をいただきました。時に背伸びをしながら、目の前にある課題をその時々懸命さをもって乗り越えて乗り越えて、あつという間だったなと感じています。子どもに恵まれてからは、音楽以外の世界も拡がり、それが指導するときにも役にたち、結果的に心が豊かになったように思います。先日、本場に久しぶりにリサイタルと名のつく公演を無事に終えました。古典から現代まで幅広い作品をヴァイオリン一本で紡いでいく内容を思いついた時、これまでの自分の活動の点と点が繋がったように感じ、その世界を会場のお客様と共有することができ、心から幸せに思いました。

1997年度助成

泉 良平

(声楽)

コロナの世界的流行に見舞われ数年が経ちました。我々オペラ関係者も変わらず感染との戦いの下、舞台活動を続けております。大学で教員を続けながら、並行して昨年はびわ湖ホールオペラ、パルジファルのカバールとして10年前に東京二期会にて演じたクリングゾールとして急遽参加させて頂きました。8月には新国立劇場中ホールにてオペラヤマトタケルの景行天皇、11月には文化庁移動オペラ公演メノッティ作曲「助けて！宇宙人がやってきた」に出演。今年は早々、藤原歌劇団公演、新制作オペラトスカ、東京名古屋公演に堂守として初挑戦します。

大萩 康司

(ギター)

私の音楽人生は、明治安田クオリティオブライフ文化財団のコンクール奨学生としてキューバのコンクールを受けることができ、賞をいただけたことがきっかけとなって大きく変わりました。ギターはソロだけでなく、アンサンブルの楽器としても活躍するも

留学をして欲しいと思う。

島田 真千子

(ヴァイオリン)

財団からのご支援を頂きコンクールに参加、留学生活を始めてから、24年が経ちました。

毎年秋の名古屋と大阪でのリサイタルや、セントラル愛知響、水戸室内管弦楽団等での演奏活動をライフワークとし、日々充実した音楽の日々を送っております。現在、京都堀川音楽高校と愛知県立芸術大学で教えており、若い音楽家と共に未来を見つめて切磋琢磨する時間は、かけがえないものです。学生の頃の全ての経験は、未来への道筋になります。どんな作曲家の作品をどれだけ学んだか、また学校やマスタークラスや音楽祭、コンクールなどに参加して出会う師や仲間の存在、自然の偉大さから得る感覚や、様々な国の文化や歴史から学ぶ事など、必ず、将来の音楽に繋がって来ることだと思います。今は留学や海外への渡航が、難しい時期ではあります。その中でたくさん経験し、失敗し、挑戦し続けて下さい。そして、たくさん自然に触れて、自然からの恵を食して、健康でいて下さい！

豊嶋 起久子

(声楽)

留学で大切なものは何だろう？2020年以降世界の習慣に変化があり文化への影響は大きい。コロナ前に比べて国際コンクールのアジア勢の入賞が目立っている、審査側に意図があるのか興味深い。ソリストは客演だ、古来の日本の能舞台でも主演は客演、世界普遍の文明の一つだと言っても過言ではない。その存在とシステムを是非学んで欲しい、私の考える留学とはこれまでの日本にないものを持ち帰って来る「機会」だと思う。母国の文化費が政治家ではなく文化人によって主体性を持ち、質を軸として演奏会や劇場を稼働できるよう、



今年も皆様にとりまして良い一年になりますように(祈)。



1999年度助成

田邊 織恵
(声楽)

オペラやコンサートも徐々に日常の一部に戻ってきて嬉しいこの頃。私自身も1年前の大病を経て、音楽をしている時の自分にみなぎるパワーを益々実感しています。大学勤務も10年目を迎え、昨年はコンサート以外にもレクチャーコンサートや講座を多く担当させてもらいました。今年も春、夏とコンサートが続きますので体調を整えながら頑張りたいと思います。

大谷 玲子
(ヴァイオリン)

20年余り前に私がヨーロッパに留学していた頃は、今から思えばどこにでも行きやすい良き時代でした。コロナ禍以降、またロシアのウクライナ侵攻により、音楽活動にも様々な影響が続いております。2023年は留学や音楽

活動が不安なくできるようになるようお願いしております。私の方は、演奏活動と教育活動に追われる毎日ですが、お蔭様で元気に過ごしております。

田中 晶子
(ヴァイオリン)

N響でも、コロナ禍で客席を1席ずつ空席にしていたのが解除され、満席近くの観客の皆様の温かい拍手をいただき、これまでの日常が戻ってきたようで胸が熱くなりました。

徐々に日常を取り戻しつつありますが、身近なところで感染の波が押し寄せてきているのも感じ、緩和しつつも感染対策は怠らないように注意して過ごしています。

2000年度助成

松原 広美
(声楽)

昨年は、1月に東京、2月に愛知で、数十年の夢であったオペラ『イル・トロヴァトーレ』アズチエーナ役を無事演じることができました。春になり、結婚以来のターニングポイントとなることが身の上で起こり、生活(というより人生)が一変しました。夏

まで闘い、奔走する日々を過ごし、その間、降板した公演もありました。これこそ(人生の)本番だ!と実感する経験をし、今まで経験した、どんな大きな公演より、命がかりでした。結果、これから迎える公演はどれも(緊張せず)楽しめるようになると思います。

歌の神様は、なかなかスパートです。「有難う」は、難があると思うように、今回の痛い経験のお陰で、何でも有難く感じるようになりましたし、歌う上でも、感受性や表現力が増したと感じています。こうなったら、ピンチをチャンスに変えるしかありません。息の長い歌手になるべく、私の新しい試みは、これからライフワークになっていく見込みです。今年はず2月19日に、オペラ「源氏物語」初演にて、弘徽殿役で出演を控えています。京都にも、フィールドワークに行きました。キャストも衣装も豪華なので、是非お出かけください。

上野 真理
(ヴァイオリン)

昨年はアートのキラパンみやぎの一環で、能楽の舞と共演する機会を頂き、奇跡の本松ホールで無伴奏を含めた

プログラムに挑戦しました。また、クラシックキャラバンではオーケストラで各地を巡回し、歌手やソリスト達の音楽の極みを肌で感じ、会場が一体となった演出に心を奪われました。これまで音楽と歩み音楽家と繋がれた中で、今年はヨーロッパ在住のピアニストをお呼びしてコンサート予定です。貴財団のサポートで広がったご縁に心から感謝申し上げます。

神谷(ジラール) 未穂
(ヴァイオリン)

皆さんのご近況をこの紙面で拝読するのが、毎年の楽しみとなっています。私の近況はと申しますと、2022年は久々にフランスのパロック仲間を招いて、アンサンブル・マレツラ公演を東京(東京文化会館)、仙台、登米で行う事が出来ました。コロナ禍で3年会えなかった仲間との嬉しい再会でした。そして所属する仙台フィル、千葉響とメンデルスゾーン、チャイコフスキーのコンチエルトを共演はじめ、思い出に残るコンサートも沢山させて頂きました。留学をご支援下さった明治安田生命クオリティオブライフ文化財団様はじめ、ご指導下さった方々、仲間、家族、

お客様ののおかげと、日々感謝、感謝です。2023年は祝50年の仙台フィルと同じく、私もいよいよ50代突入!!デビュー25年も迎え、宮城学院女子大、桐朋オーケストラアカデミー特別指導はじめ、講師、コンサートマスター、磯絵里子とのデュオプリマ、室内楽、ソリスト、と更に元気に活動したく、ストレッチ、食事、睡眠に気を付けたいと思っています。留学中の皆様も健康第一で充実した日々を。日本から応援しています。

シュレイファー(遠藤) 弓子
(ハープ・ダラス在)

今シーズンは過去2年間とは違い、音楽の世界にも活気が戻ってきました。こちらアメリカでは、マスクをつけている人はもうほとんどおらず、コロナ以前の日常が戻ってきた感じもします。コンサートの数も増え、対面でコンサートの出来る喜びを噛みしめた音楽家も、多かったのではないかと思います。私自身も、20年近く続いていたコンサートがコロナの為に二年連続でキャンセルとなりましたが、それらのコンサートも再開され、演奏の機会が戻ってきました。また、学校等の演奏会も通常通り行われる様

になり、生徒達も仲間と共に演奏できることを喜んでいました。その様な中でも生徒達は遅しく育っており、今年は、どうしてもハープを大学で学びたい、学業との両立もしていきたいと強く希望する生徒が、なんと、ダブル・メジャーならぬ、トリプル・メジャーでシカゴにある大学に入学しました。アメリカの子供達の意志の強さ、学びたいという志の高さに驚かされました。本当に私にとっても励みになります。本年が皆様にとって良い年となりますようにお祈り申し上げます。

2001年度助成

三上 亮

(ヴァイオリン)

昨年10月に弦楽四重奏でドイツツアーを行いました。ゾーリンゲン、ドナウエッシンゲンなど5つの都市で7公演、地元紙でも大変好評をいただきました。贅沢にもカルテットに集中できる2週間を過ごし、学生の頃はこうして一つ一つの演奏会を噛み締め、その度に成長があった事と思い出し、自分の音楽を見つめ直す良い機会になりました。

大石 将紀

(サクソフォン)

この原稿を書いている日に「故入野義朗生誕100+1周年記念コンサート」に出演し、箏と「協奏的二重奏」を演奏しました。僕がサクソフォンと邦楽器のための作品を委嘱するプロジェクトを始めよう、と思うきっかけを与えてくれた作品です。夫人でありJML音楽研究所を主宰され、入野賞などで世界中の若手作曲家にチャンスを与え続けてきた入野禮子先生は大学生時代に副科で日本のクラシカルサクソフォンのパイオニア、坂口新先生に師事されたこともあり、サクソフォン奏者の僕のことにも気にかけてくださって、今回もこのコンサートのお話を下さいました。悲しいことにこのコンサートは約1ヶ月前にお亡くなりになってしまいました。入野禮子先生の音楽界への多大なるご功績を偲び、心よりご冥福をお祈りいたします。

2002年度助成

渡邊 方子

(チェロ)

2010年にNHK交響楽団に入団してから早いもので

10年以上が過ぎました。素晴らしい指揮者との共演の日々は私にとって宝物であり、今期から首任指揮者となったファビオルイージ氏との今後の活動にも大変期待しているところです。様々な経験を糧に、今年も自分なりのペースで前向きに歩んでいけたら、と思っております。

2003年度助成

市原 愛

(声楽)

一昨年創立30周年を迎えた明治安田クオリティオブライフ文化財団。私が留学を支援して頂いたのが、かれこれ20年前(!)という事実に啞然とさせられますが、今でも変わらず活動を見守って下さり、昨年末には東京芸術劇場にて、過去に同財団から海外音楽研修助成を受けた数名がソリストとして出演するコンサートも実現致しました。コロナ禍や情勢不安もあり、海外留学を現実的に考えられない学生が多くいるように感じられますが、私にとって、20年前に思い切った海外へ飛び出しチャレンジ出来た事は、人生のかけがえのない糧となっています。この素晴らしい研修助成が、これからも多

くの音楽家の希望の存在となっていて下さることを願っております。



2004年度助成

富平 安希子

(声楽)

劇場に、コンサート会場に、音楽が戻ってきました。人数制限はなくなり、海外からのアーティストも続々と来日し私達に音楽を届けてくださるようになりました。掛け声は禁止等の制約はまだあり以前と全く同じとはいきませんが、このような環境でまた活きた音楽を生で楽しめるようになったことを実感し、非常に嬉しく思う1年だったように思います。今年はコンサートや音楽祭への出演の他、リサイタルの開催も検討中です。マリア・カラスが生前遺した『歌に関して言えば私たちはみんな死ぬまで学生なのです』という言葉に胸を熱くしながら、毎日少しでも成長したいと歳を重ねるごとにより強く思うようになりました。

2005年度助成

遠藤 真理

(チェロ)

昨年はコロナ禍第6波、7波の流れの中、まだまだ落ち着かない日々を過ごしていました。そんな中ワーグナーのバルジファルに取り組む事ができて大変勉強になりました。5時間ほどかかる大曲ですが和声進行にドキメキを覚え、あつという間に感じました。また、室内楽も沢山演奏会があり苦手と思っていたブラームスも仲間や素晴らしい指揮者と演奏しているうちにとても身近に感じる事ができました。今年も、まずは健康第一で日々精進して参りたいと思います。

横坂 源

(チェロ)

昨年は念願のドイツへ(改めて醸し出されるドイツの空気や町の雰囲気は日本とは異なることを感じ、定期的に行き来することの大切さを痛感しました!)、そして秋にはルートヴィヒヒェンバー・プレイヤーズのメンバーをドイツから招集し、日本7都市を巡るツアーを無事開催することができ、喜びを感じています。1月には東京文化会館

でのリサイタル、新潟市民芸術文化会館での無伴奏リサイタルなどが予定されていますので、作品の魅力をお届けできるよう精進して参りたいと思います。



2006年度助成

江水 妙子

(声楽)

今年の3月に立川市民オペラのカヴァレリア・ルスティカーナに出演いたします。

コロナも新たな段階に入りオペラも息を吹き返しそうですね。

皆様もコロナによって演奏の機会が奪われたことと存じますが、2023年は公演も戻ってくると思います。素敵なパフォーマン스에恵まれます様お祈りいたします。

佐藤 卓史

(ピアノ)

ご縁があつてベーゼンドルファー・インペリアルが自宅にやってきました。ピアノストは本番で自分の楽器を弾くわけではないので、自宅の練習ピアノにはこれまでほとん

ど気を払っていませんでしたが、いざ普段からフルコンで練習するようになると、気分も耳もだいたい変わってきたように感じます。コロナ禍の収束に伴い、自宅サロンでのミニコンサートも積極的に企画していこうと考えています。ライフワークのシューベルト全曲演奏シリーズは第17回まで終了、2023年5月にヴァイオリン林悠介さんをお招きしての第18回、10月にソロで第19回公演を予定しています。

www.takashi-sato.jp

鈴村 真貴子

(ピアノ)

昨今の不安定な国際情勢に心を痛めつつ、自身の留学時代を思い返すと、あの頃は当たり前のようにな音楽に没頭することのできた幸せな時間だったと改めて感じています。この感謝を忘れずに、今年も、私のライフワークであるプーランクの演奏やレクチャー、レコーディングを軸に音楽活動に励みたいと思います。1日も早く穏やかな日々が世界に訪れることを祈りつつ、皆さまにとってこの一年があたたかく幸せな一年となることを心から願っています。

2007年度助成

中村 恵理

(声楽・ミュンヘン在)

昨年はコロナ禍の影響を受けながらも、新国立劇場を始めロンドンやニューヨークなどで出演させて頂き、2023年はイタリア、ハンガリー、スコットランド等でデビューする予定です。新しい出会いにも、古くからのご縁にも大変感謝しております。世界中が先行きの見えない形容し難い不安の中にあるように思いますが、劇場へお越しの間は心ある音楽をお楽しみ頂けるよう、今後も精進して参ります。

2008年度助成

クリステン・木実・ウィットマー

(声楽・オランダ在)

今年3月は、こちらオランダのバッハ協会が、日本から鈴木優人氏を指揮者に招いてマタイ受難曲の13公演ツアーを行います。私もソリストとして参加させて頂くことになりました。100年以上の伝統を持つオランダバッハ協会の受難曲ツアーに、バッハ・コレギウム・ジャパンをも率いて世界に向けてバッハを発信する鈴木氏を迎えてのこの

機会、とても楽しみです！

塚越 慎子

(マリンバ)

昨年は、デビュー15周年を迎え、「カンタービレ」歌うように」をテーマに、自身の音楽人生を形づくった大切な曲を集めた新アルバム「Cantabile」をリリース、12月に記念リサイタルを行いました。また、コロナ禍に入ってから初めて海外公演をお引き受けすることが叶い、アメリカの「アメリカン・パーク・セッション」アルゼンチンの「国際パーカッションフェスティバル」他多くの公演に招待いただき、計6週間滞在、各地で演奏、マスタークラスを行いました。今後も、真の音楽を国内外さまざまな地域へお届けできるよう、常に新しいことに挑戦しながら演奏活動に邁進してまいります。

2009年度助成

重島 清香

(声楽・ワイマール在)

ドイツ・ワイマールでの専属歌手としての生活も11年目を迎えました。ワイマール市の毎年恒例である、玉葱マラソンに参加し、11キロメートル

ルを無事に完走いたしました。今シーズンには大好きなズボン役「ナクス島のアリアドネ」から作曲家役、「ロミオとジュリエット」ロミオ役に挑戦いたします。

金子 平

(クラリネット)

携帯電話を持たないことや、畑を借りて野菜作りをするなど、一見音楽とは関係のないゆとりのある生活が、実は芸の肥やしになっている気がします。留学中に経験した、ドイツでの時間の流れや、人々の時間の使い方に魅力を感じていることも影響しているのかもしれない。

2010年度助成

多田 真理

(ピアノ)

国立音楽大学附属中学校・高等学校の専任教諭になり、3年が経とうとしています。レッスンや学校生活を通して、生徒の良き個性を伸ばせるようにと取り組んでおります。自分の力不足を痛感しながらも、生徒の優しさに助けられる日々です。そして何よりも未来ある若者と共に音楽を学べる幸せを感じております。

酒井 有彩

(ピアノ)

昨年は長野県上田・サントミューゼのレジデントアーティストとして様々な場所で演奏させていただきました。コロナ禍以降中止が続いたアウトリーチ活動の機会も増え、子供達の豊かなイマジネーションに多くの発見や感動があり、印象深い経験となりました。今年は2枚目のCD制作、そして7/12 東京芸術劇場大ホールでのリサイタルなど、一つ一つの舞台を大切に邁進してまいります。



2011年度助成

門間 信樹

(声楽)

財団から助成を受け渡米したのがちょうど10年前。コロナ蔓延を機に帰国したため心残りではありますが、世界を見る事ができたのはかけがえない経験になりました。芸術とは美の追求だと思っていいます。自分が想像しうる美しい音楽より更に美しいものをこの世界のどこかで見つけられるのではないかと音楽への愛が止みません。

永井 基慎

(ピアノ・フランス在)

昨年は2枚のCD録音の機会をいただき、グラナダ(西)でサクソフォンとデュオで録音したほか、パリでピアノソロ、室内楽、歌曲を取り入れたアルバムも録音致しました。グラナダで録音に使用したフアリヤ記念ホールはアルハンブラ宮殿の隣にあり、素晴らしい環境での録音に感激致しました。また昨秋より母校のバリ国立高等音楽院にてコントラバス科及びホルン科の伴奏助手を務めております。レッスンはしばしば教授から意見を求められたり、学生と一対一で指導したりもします。私自身も成長できるよう取り組みつつ責任感をもって今後も勤務して参ります。

2012年度助成

増田 桃香

(ピアノ)

セルゲイ・ラフマニノフの作品をメインに据えたりサイトを控え、行き場のないつらさを感じる毎日へと変化せざるを得なかったあの日。そして、その日から今までも変わらず。演奏家として自身ができることは、悲しみや怒りに支配されることなく、優れた芸術作品を、絶えず「実演」し続けていくことだと考えています。演奏できる環境があることを心から感謝し、作曲家に敬意を込め、真摯な思いで音を紡いでいきたい。このような気持ちで、今後も演奏を続けていきたいと思っています。

松本 紘佳

(ヴァイオリン)

2022年は、梯剛之さんとシュベルト作曲ファンタジーを、ジェラルド・プーレ先生とヴィヴァルディ作曲2台ヴァイオリンのための協奏曲、ドミトリ・フエイギンさんとブラームス作曲ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲やヘンデルⅡハルヴォルセン作曲パッサカリアを、また弦楽アンサンブルと共にヴィヴァルディ作曲四季全曲及びピアソラ作曲ブエノスアイレスの四季より夏と冬を協演いたしました。

2022年10月にイタリアカ・クレモナの名門Stauffer Academy主催Concertmaster Artist Diploma選抜に合格。2023年7月まで、毎月5日間クレモナに滞在し、世界一流のコンサートマスターからアドヴァイスをいただくことのできる機会です。(受講費免除)

2023年はウィーンにてヴィヴァルディ作曲四季全曲、湘南にて湘南エールアンサンブル代表の坪田亮子さんとモーツァルト作曲ヴァイオリンとヴァイオラのための協奏曲を演奏します。支えて下さっているすべての方々への感謝の気持ちを持って、音色を磨き続けます。また皆さまとコンサート会場でお会いできますことを楽しみにしております。 <https://www.hirokamatsumoto.com/>

上村 文乃

(チェロ)

2020年に完全帰国し2年が経ちました。大変有難い事に、留学中出逢った古楽器でのピリオド奏法、また幼い頃から弾き続けているモダンチェロのどちらの方面でも演奏の機会を頂くことができ、充実した日々を送っています。22年春はホテルオークラ音楽賞を頂き、夏にはアメリカで開催されたインディアナポリス国際バロックコンクールにて優勝する事が出来、来年末ナクソス社からCDを発売する事が決まりました。またカナフィルさん、沼尻マエストロとご一緒させて頂いた

グルダ作のチェロ協奏曲も大成功に終わり、来たる4月29日には横浜みなとみらい大ホールにて、念願叶いなかなか演奏機会の少ないプロコフィエフのシンフォニックコンチェルトを弾きます。目まぐるしい毎日ですが、一つ一つのご縁に感謝して、これからも精力的に更に良い音楽を奏でていきたいです。

2013年度助成

谷垣 千沙

(声楽・ドイツ)

昨年は結婚、その後第一子を授かり、私生活でも変化の多い年となりました。家族や仲間など沢山のサポートを受けながら歌っていけることに感謝しています。本年はパリ・フィルハーモニーでの公演をはじめ、夏には私たちのTrio Shulamit (Sop. Cl. Pj)用に編曲されたグスタフ、アルマ・マラーの歌曲のCD録音を予定しています。

佐藤 彦大

(ピアノ)

その節は大変お世話になりました。本当にありがとうございます。2022年4月より、東京音楽大学の専任講師に就任し、大学の仕事と演奏の両

立に励んでおります。チェリストの堀江牧生氏とのデュオリサイタル、そして自身のリサイタル、明治大学でのレクチャー&演奏と、充実しております。今後も自身の音楽を追求し続けて参ります。

藤井 淳子

(チェロ・ベルリン在)

去年6月(2022年)に受けたオーケストラのオーディションに合格し、8月下旬よりアルテンブルク・ゲール交響楽団のチェロ首席として働き始めました。ゲールとは旧東ドイツのライプツィヒから55km離れた場所に位置する都市です。ドイツはこうして地方都市にも歴史ある劇場やオーケストラが無数に存在し、現在も尚、需要があると言う事がとても魅力的なことのひとつだと思います。

2014年度助成

熊田アルベルト彩乃

(音楽・ウィーン在)

この一年はウィーン市内や近郊の町でのコンサートで歌わせていただくことが多く、ドイツリートやオペレッタの曲のレパートリーが増えました。また、フランチ・イッピツシュという、ナチスの迫害を

受けて国外に脱出したあまり知られていないオーストリア人作曲家の作品を演奏する機会を得るなど、地元での音楽活動の面白さも感じました。ウィーンの街には観光客もかなり増え、徐々にかつての賑わいを取り戻している印象です。

浜野 与志男

(ピアノ)

2018年より講師を務めております東京音楽大学にて、今年度より専任講師として着任いたしました。初めて卒業生を送り出すタイミングで世界的に渡航制限が緩和され、若い音楽家たちの眼が再び海外へ向くようになりました。昨夏には米ワシントンで講習会を開催し、今夏も同地とミラノ近郊で講習会を企画いたします。国際的な交流を発展させるため力を尽くしたく思っております。

浦山 瑠衣

(ピアノ・南カリフォルニア在)

数々の恩師から頂いた学びの中で一番心に残っているものは何か、と考えた時に「人間性」であることに気がつきました。私が未来を担う子供達を教える側の立場になった今、一生涯続ける姿勢を示

し共に成長していきたいものです。今年は、CD Bloomingに収録した作品を出版するために電子楽譜化にも力を注いでいきたいと思っています。

中川 日出鷹

(ファゴット)

2022年6月から日本フィルハーモニー交響楽団のファゴット奏者として演奏活動の機会を頂くことになりました。まだまだ学ぶべきことがたくさんあり楽しい日々を過ごしております。

2015年度助成

齊藤 一也

(ピアノ)

留学時代に見た景色や培った経験は今なお自分の音楽に生きていて、演奏の度に色濃く蘇ります。欧州の陸続きの環境下では、色々と格段な手段で異国の地に行ける事も最大の魅力の一つですので、是非皆さんも貪欲に旅に出て、その時ならではの稀有な実経験を沢山してください。昨年「ザ・パッション」というソロアルバムを出しました。私の留学時代の強い想い出が詰まった力作です！

篠原 悠那

(ヴァイオリン)

22年9月にはHakujū hallで藤倉大さんの作品世界初演奏含むリサイタルを開催させていただきました。11月にはカルテット・アマービレのメンバーとして2017年から5年ぶり2回目のマルタ・アルゲリッチさんとのシューマンのピアノ五重奏の共演が叶います。人と演奏する事が好きな私にとって室内楽作品、オーケストラ作品などと素晴らしい音楽家の皆様との出会いや音楽での会話は心から幸せを感じますし、現在も音楽を続けられてる事に大変感謝の気持ちでいっぱいです。

麻生 雄基

(テューバ・ドイツ在)

2022年はウィーン国立歌劇場の客演に始まり、マラーチエンバーオーケストラのアカデミーも経験させていただきました。長く立派な歴史があるオーケストラでの経験は非常に多くの事を学ぶ場でもあり、新しい人との出会いに多くの刺激を受けました。この経験を糧に2023年も充実した1年となるよう、一歩一歩前進を重ねて参ります。

2023年が皆様にとつ

て、健やかで希望に溢れる1年となりますように、心よりお祈りしています。

2016年度助成

川口 成彦

(フォルテピアノ)

12月上旬にオランダのEt ceteraよりフランダース地方のロマン派の作曲家たちのCDを出します。18世紀オーケストラのメンバーと室内楽版で録音したハンセンスのピアノ協奏曲など世界初録音だらけです。19世紀前半のプレイエル、エラール、後半のブリュートナーの3台を使用した豪華な録音でした。このCDの発売目前ですが、もう来年の第2弾の録音の話も出ており背筋が伸びる思いです。

上野 明子

(ヴァイオリン・デュッセルドルフ在)

昨年春にケルン音楽大学国家演奏家資格課程を修了し、長かった学生生活を終えました。夏からはデュッセルドルフ交響楽団の契約団員として弾いております。ケルンから引越した際には家にキッチンを自分で入れるという日本では考えられない困難にぶつかったりもしましたが、今では新しい生活に慣れて楽しい

生活を送っています。

2017年度助成

松原 みなみ

(声楽)

沢山の方々に支えていただき、第91回日本音楽コンクール歌曲部門で第一位、並びに木下賞、畑中賞、E・ナカミチ賞を受賞いたしました。身に余るほど大きな賞に恐縮しますが、さらなる飛躍を目指して、一層精進していく所存です！

坪井 夏美

(ヴァイオリン・ベルリン在)

カラヤンアカデミーに留学して2度目の冬を迎えています。ベルリンフィルにて素晴らしい指揮者やソリストと同じ舞台で演奏させていただいたり、国際色豊かなアカデミーの仲間達と切磋琢磨しながらチェンバールや室内楽やソロを演奏したり、刺激的で充実した日々を過ごしています。ヨーロッパに拠点を置く生活も残り少なくなりましたが、各地のオーケストラやオペラ、バレエ鑑賞なども楽しみにながら、1日1日を大切に精進していきたいと思えます。

中島 諒

(サクソフォン・パリ在)

季節も変わり、本当に寒くなってきた。朝布団から出るのが億劫な季節、しかし外に出てみるとこの季節のいいが、それがまた心地よい。いま、パリではあらゆる道路で電飾が輝き、クリスマスマーケットがオープンし、皆さん楽しそうに街を歩いている。いつも何故だか感じられる、この時期の気持ちの昂揚は毎年変わらない。クリスマスマーケットでは、各地ヨーロッパでホットワインが売られている。シナモンなどの調味料とワインを長時間煮込んだもので、また独特の味で、飲んだ瞬間、ハッと、今の季節に自分がここにいる、ということを感じ返ったような感覚になる。やはり味覚は、記憶と直結しているのだと感じる。また、2023年の春に日本でコンサート公演が決まった。5月6日土曜日の夜、東京の豊洲シビックセンターホールで開催される。今からとても楽しみである。



2018年度助成

高橋 維

(声楽・ウィーン在)

コロナ禍も3年目となった2022年ですが、演奏活動と勉強の機会に恵まれ、特に日生劇場『ランメルモールのルチア』でタイトルロールを演じたことは大きな経験となりました。

2022年に続き2023年もNHKニユーイヤーパーラコンサート出演に始まり、ヨーロッパと行き来しながらの演奏活動を予定しております。声やパフォーマンスをより一層成熟させられるよう励んでまいります。

仁田原 祐

(ピアノ・ザルツブルク在)

コロナ禍に終わりが見えた矢先のウクライナでの戦争、心の落ち着かない日々がヨーロッパでも続いています。そんな中、2022年は大学での活動の傍ら参加したサンタデー国際コンクールで入賞、ヨーロッパ各地での演奏会も増え、改めて演奏活動を続けられる幸せを感じる一年となりました。これからさらにステップアップができるよう、今まで以上に努力してまいります。

小林 忋成

(ヴァイオリン)

東京交響楽団のコンサートマスターとなり、一年が過ぎました。1人では演奏体験ができない交響曲、オペラ、作品の数々の勉強に邁進すると同時に、室内楽やソロの機会もいただけて音楽漬けの毎日ですが、留学時代に感じた何も考える事なく自然に過ごす事の大事さも再確認し、習慣になった散歩を日課に健康管理しています。



2019年度助成

山田 花織

(声楽・ミラノ在)

最近の活動としまして、ミラノにてドニゼッティ作曲のオペラ「La Fanciulla del West」のリタ役、そしてパドヴァにて由緒あるオーケストラ「I solisti veneti」の共演でアルビノーネ作曲の「Il nascento dell'aurora」のダフネ役と、二つのタイトルロールを歌わせて頂ける機会に恵まれ、とても充実した経験をさせて頂きました。今後もひ

とつひとつのご縁と機会を大切に精進して参ります。

秋元 孝介

(ピアノ・ミュンヘン在)

昨年は日本とヨーロッパを行き来しながら、ドイツでの研鑽も継続して行いました。ピアノ三重奏団「葵トリオ」としては、ドヴォルザークとマルティヌーを収録した新CDをドイツ・ヘンスラー社から発売しました。ピアノソロにおいては、東京や関西においてメトネルとラフマニノフを中心としたリサイタルを開催しました。今年も引き続き研鑽を積みながら積極的に演奏活動を行っていききたいと思います。

小川 恭子

(ヴァイオリン)

2022年はチャレンジングな一年でした。リサイタルで委嘱作品を初演したり、ソロのみならず室内楽やオーケストラ等様々なジャンルでの場数を踏めた事、それに伴う新しい出会いと共に世界が広がりました。また、スウェーデン国際デュオコンクールで優勝しヨーロッパでの演奏機会も得ました。2023年、レパートリーを増やして更に精進してまいります。

田原 綾子

(ヴィオラ)

この夏、デトモルトでの留学生生活を終えました。修了試験ではこれまでに学んだ作品たちを並べたプログラムを演奏し、最高得点を頂くことが出来ました。来年夏のドイツの音楽祭への出演も決まり、今からとても楽しみです。日本でのコンサートにも真摯に取り組み、音楽家として更に自分の音楽を深めてまいります。

2020年度助成

桜井 愛子

(声楽)

2021年8月に日本に帰国して早1年が過ぎました。《天地創造》《メサイア》といった昔から取り組んでみなかった作品のソリストのご縁や、第33回奏楽堂日本歌曲コンクールで第1位受賞など、思いがけないご褒美をいただきました。来年こそは不安定な世界情勢そして円安に負けず海外研修できるように準備して参ります。

吉田 一貴

(声楽・パルマ在)

この年は多くのコンサートやオペラ出演、コンクールや

オーディションへの挑戦をし、その中でもコンクールはより印象に残っています。コンクールやオーディションは

コンサートやオペラとは違い、審査をされるという緊張感があり神経をすり減らすので、いつもの様に歌えなく、悔いの残る結果になることがあります。ですが、その緊張感の中で歌った経験はコンサートやオペラの出演よりも自分の技術を更に身に付けてくれる事を感じました。私自身もそれらの経験を積んだ後は、落ち着いて歌うことが出来、その後のコンクールでも第三位に入賞することが出来ました。そのことから挑戦無くしては経験も得られず自信も付かない事を感じました。これからも挑戦し続けて世界的な歌い手になりたいです！

黒田 哲平

(ピアノ・デトモルト在)

おかげ様で、留学生活も三年目を迎え、音楽に集中出来る幸せを噛みしめるとともに、日頃のご支援に日々感謝しながら過ごしております。ドイツではコロナウィルスによる規制も随分と和らいで参りました。これを機に今年はより一層、様々な国際コン

クールに積極的に参加していく所存です。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

横山 瑠佳

(ピアノ)

2022年3月にミュンヘン音楽大学を卒業し、現在東京藝術大学大学院に復学しております。帰国後は学業は勿論のこと、ソロや室内楽などの演奏活動も積極的にこなしております。また、2023年には高松国際ピアノコンクールを始めとする、複数の国際コンクールを控えていますので、丁寧な準備を心がけ、充実した時間になるよう取り組みたいと思います。

荒井 優利奈

(ヴァイオリン・ウィーン在)

コロナ禍でもソロや室内楽、現代音楽など沢山の演奏機会に恵まれ、演奏できる喜びを実感しています。生活面においては急な引越を余儀なくされ家探しなど苦労しましたが、気分転換で行ったインスブルックでのチロルの大自然からパワーをもらい、色々な経験が私の音楽人生の糧となっていると実感しています。これからも色々なことにチャレンジしながら精進してまいります。

2022年度助成

和田 悠花

(声楽・パルマ在)

パルマでの留学開始から2週間後、初めて劇場でオペラを鑑賞しました。演目はヴェルディ作曲「運命の力」です。同じボックス席にいらした男性3人組が声をかけてくださり、「君はオペラの勉強をしているんだから！」と、一番見えやすい席を譲ってくださいました。情熱的な音楽と素敵な出会いに、心温まる夜でした。

松村 由慶

(ピアノ・ザルツブルク在)

留学生活がスタートして3ヶ月が経ちました。ソロのレッスンはもちろん、室内楽を勉強したり、コンサートにも足を運んだりとても充実した日々を過ごしております。様々なハプニングもありますが、街の人々が温かく、皆さん助けてくださるのでとても心強いです。これからも周りの方々に感謝しながら日々精進してまいります。

香月 麗

(チェロ・パリ在)

9月より始まったパリでの新生活では、文化が集まる街

を肌で感じています。音楽院とフィルハーモニーと寮が徒歩5分圏内という立地で、週2回のレッスンとブラボーが飛び交うコンサートの数々から音楽熱を受け、探求心に火がつきます。3月3日には紀尾井ホールでの「明日への扉」リサイタルを控えております。ご支援いただいてこそ恵まれた環境での学びに、心から感謝いたします。

岡本 侑也

(チェロ・ミュンヘン在)

現在、ミュンヘン音大のMeisterklasseというコースに在籍しております。J・シュテッケル先生の下で充実した勉強をさせていただいております。

2023年春に、3度目のクリスチャン・ツイメルマン氏との室内楽ツアーを予定しておりますが、今回はルツェルンやルクセンブルクなど、ヨーロッパの主要ホールで演奏させていただきます。全身全霊をささげて取り組みたいと思います。



「海外音楽研修」「海外音楽コンクール」助成対象者一覧

(敬称略)

助成対象者				助成対象者				助成対象者			
氏名		専攻		氏名		専攻		氏名		専攻	
1991年度				1999年度				2010年度(続き)			
久住庄一郎	紫	声楽	*	田邊織恵	*	声楽		多田真理		ピアノ	
妻喜秀		ピアノ		林野田		ピアノ		酒井林		ヴァイオリン	
江澤友子		ヴァイオリン		中野大瀬		ヴァイオリン		2011年度			
大植村		ハーブ	*	瀨田清		ヴァイオリン		小門大信		声楽	
千村林		ギター	*	田中水		ヴァイオリン		坂本基里		ピアノ	
小松藤		トロンボーン	*	宮部小牧	*	声楽		永正黒		ヴァイオリン	
鈴末鈴		打楽器	*	松上神日	*	ヴァイオリン		金		バス・トロンボーン	
1992年度				2000年度				2012年度			
佐野成宏		声楽		宮部小牧	*	ヴァイオリン		竹下裕美		声楽	
揚原祥彦		ピアノ		松上神日	*	ヴァイオリン		増松上		ピアノ	
志田茂		ヴァイオリン		日下藤矢	*	チェロ		村		ヴァイオリン	
田伊藤		ヴァイオリン		工藤紗子	*	ハーブ		松本		チェロ	
宮飛本		ヴァイオリン		中藤	*	ギター		上		フルート	
富永		ヴァイオリン		山本美樹	*	フルート		2013年度			
早川		ヴァイオリン		呉村香	*	フルート		谷加藤		声楽	
梅津千恵子		ヴァイオリン		本村香	*	フルート		垣藤井		ピアノ	
1993年度				2001年度				2014年度			
横田みぎわ		声楽		山本美樹	*	声楽		熊田彩乃		声楽	
有頭森		ヴァイオリン	*	川吳本	*	ピアノ		宮里直志		ピアノ	
九山見		ヴァイオリン		山本村	*	ヴァイオリン		濱野樹男		ヴァイオリン	
山齋		ヴァイオリン		川椎下	*	ヴァイオリン		尾山衣美		ファゴット	
萩岩		ヴァイオリン		大三上石	*	サクソフォン		2015年度			
1994年度				2002年度				2016年度			
樋口あゆ		ピアノ		柳長慶	*	声楽		鈴木玲奈		声楽	
M.A.シュリー		ヴァイオリン		大崎田	*	ピアノ		川口成彦		フォルテピアノ	
小清水		ヴァイオリン		高野圭	*	ヴァイオリン		上野明真		ヴァイオリン	
磯中		ヴァイオリン		杉村和	*	ヴァイオリン		二瓶瑛子		フルート	
横山		ヴァイオリン		高橋高	*	ヴァイオリン		2017年度			
赤松		ヴァイオリン		渡邊方	*	ヴァイオリン		松原みな		声楽	
神田		ヴァイオリン		市原愛	*	ヴァイオリン		今井篤美		ピアノ	
1995年度				2003年度				2018年度			
大井浩明		ピアノ	*	山田智	*	ヴァイオリン		坪井夏		ヴァイオリン	
大森本		ヴァイオリン		山田智	*	ヴァイオリン		中島		サクソフォン	
桎森本		ヴァイオリン		武藤順	*	ヴァイオリン		2019年度			
志本茂		ヴァイオリン		富平安	*	ヴァイオリン		高橋維		声楽	
玉井橋		ヴァイオリン		中脇岡	*	ヴァイオリン		仁田林		ピアノ	
石神代		トランペット	*	脇岡村	*	ヴァイオリン		小岡本		ヴァイオリン	
1996年度				2004年度				2020年度			
小山麻穂		声楽		富平安	*	ヴァイオリン		山田花		声楽	
上里英		ヴァイオリン		中脇岡	*	ヴァイオリン		秋元孝		ピアノ	
清水有		ヴァイオリン		藤坂真	*	ヴァイオリン		小川原		ヴァイオリン	
大谷裕		ヴァイオリン		江田雅	*	ヴァイオリン		2021年度			
安藤友		ヴァイオリン		白水根	*	ヴァイオリン		谷口知聡		ピアノ	
古川展		ヴァイオリン		佐藤真	*	ヴァイオリン		阪田知		ピアノ	
中山山		トランペット	*	朝吹園	*	ヴァイオリン		太田井		ヴァイオリン	
1997年度				2005年度				2022年度			
泉増良平		声楽	*	中江隼	*	ヴァイオリン		櫻井愛		声楽	
大場温		ピアノ		上江隼	*	ヴァイオリン		吉田一		ピアノ	
高橋博		ヴァイオリン		伊藤朝	*	ヴァイオリン		横山瑠		ヴァイオリン	
川崎貴		ヴァイオリン		渡邊玲	*	ヴァイオリン		内尾文		ヴァイオリン	
山田中		ヴァイオリン		クリステン	*	ヴァイオリン		2023年度			
早中川		ヴァイオリン		相田麻	*	ヴァイオリン		和悠花		声楽	
大萩康		ヴァイオリン		木嶋真	*	ヴァイオリン		村方理		ピアノ	
伊藤寛		ヴァイオリン		塚越真	*	ヴァイオリン		東月本		オルガン	
1998年度				2006年度				2024年度			
黒木香保		声楽	*	盛田麻	*	ヴァイオリン		香		チェロ	
豊嶋起		ピアノ		松浦文	*	ヴァイオリン		(注) ・*は海外音楽コンクール助成対象者 (同助成は2003年度以降廃止) ・(a)と(b)とは同名の別人 ・○は1年間助成を2回助成決定			
増田野		ヴァイオリン	*	三上野	*	ヴァイオリン					
伊藤谷		ヴァイオリン	*	金	*	ヴァイオリン					
新垣泰		ヴァイオリン	*	高橋さ	*	ヴァイオリン					
扇野倉		ヴァイオリン	*	重島清	*	ヴァイオリン					
島田真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
野田真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
田真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
倉真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
田真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真		ヴァイオリン	*	高重	*	ヴァイオリン					
真											